

フラッシュ

中国

華国鋒体制は 漸次強化の方向へ

——浮き上がった急進派

昨日まで脚光を浴びていた最高幹部が、突如舞台から姿を消すという北京の政治ドラマが、またまた再演された。

江青(党政治局員、故毛主席夫人)、王洪文(党副主席、張春橋(党政治局常務委員、

副首相)、姚文元(党政治局員)ら、いわゆる「急進派」グループ追放劇の経過については、なお不明の部分が多い。

しかし、要するに、右の四幹部を含むグループが、おそらく一〇月六日ごろの時点で「逮捕」ないしは「軟禁」という形で活動の自由を奪われ、ついで一〇月八日に開かれたとみられる党政治局会で、華国鋒(党第一副主席、首相)が、故毛主席を継ぐ党主席に選ばれたということだ。

華第一副主席の昇格のウワサは一〇月九日ごろから流されたが、一二日になって中国外交部のスポークスマンが、

これを公式に認めた。同時に中国国内でも、このニュースが、各機関、組織を通じて下部に伝達されているという。

「丹頂づる」だった急進派

中国指導部内の「急進派」あるいは「文革派」と、「穏健派」ないしは「実務派」の抗争が、ポスト毛の段階でいつかは火を噴くとみられていたが、その時期は予想以上に早かった。

またその際、結局のところ実務派・軍の連合勢力が、急進派を封じ込めると予想されたが、ただその抗争がどのような形になるかが注目された。

というのは、急進派が、①長く宣伝機関を握って盛んに思想キャンペーンを行ってきたこと、②実力集団としての民兵を育ててきたこと、③軍にも急進派を相当数送り込んで、影響力の増大を図って

きたことなどから、相当の抵抗を示すのではないかとこの見方もあったからだ。

しかし、実際には、急進派は、第一に、思想キャンペーンが、大衆に浸透していなかった。むしろそっぽを向かれていた。第二に、都市民兵も、地区別に組織されていて全国組織を持たなかったという弱点があったし、それに何よりも、毛主席という大きな文えを失った急進派には、もはや民兵を奮い立たせる力も権威もなかった。

第三に、急進派は、中央ならびに地方軍区の軍政委員に同調者を送り込んでいたが、しかし結局彼らが軍を動かすことはできなかった。軍の実力者は、長い間「独立王国」といわれる地方軍区を支配してきた司令官たちであり、しかもこの軍首脳が多くにとって文革派は恨み骨髄であ

った。

要するに、急進派は、「丹頂づるの赤冠」(東京外語大中嶋嶺雄助教授)のようなもので、中国の社会・民衆から浮き上がった存在にすぎなかった。

『走資派批判』の中で現場の実務官僚が萎縮していることは、中国からの帰国者たちも目のあたりに見ているところであり、そのためにたとえばわが国に関係したところで、製鉄プラントの建設も遅れているようである。

今年には第五次五ヵ年計画の初年度だというのに、相変わらずそのワク組みすら明らかにされず、また右のように経済建設は停滞している。

こうした中で急進派は、依然として永久革命を説き、「階級闘争こそかなめ」だと鼓吹してきた。しかし、実は中国の大衆の大多数は、昨年一月、故周恩来首相が第四期全国人民代表大会で打ち出したような着実な経済建設路線を熱望していた。

また、工場労働者の間には文革派の禁欲的にかつ平等主義的な賃金政策についての不

個人消費の回復は いましばらくの辛抱か

個人消費の停滞が続くなかで、三菱銀行は一〇月九日、個人消費の先行きについて、「所得、消費マインドいずれの面からみても、個人消費が当面回復に転ずる可能性は小さい」との調査報告を発表した。

所得の面では、企業収益が回復してきたとはいえ、ピーク時の六割に達しにくく、おと、利益率は半分以上である。また、公共料金の値上げ、減税の見送り、社会保険料の引き上げなどによって、冬のボーナスが前年比一〇〜一五%伸びたとしても、可処分所得は実質ゼロ成長とみられる。また、消費マインドの面でも最近の消費性向の伸びが、公共料金値上げによる必需的支出の域を出ていないため大きな期待はもてない。

このため、同行では個人消費の回復は当面むずかしく、経済が自律回復の軌道に乗るまで、「いましばらくの辛抱」が必要とみている。



9月2日時点の(左から)華国鋒、王洪文、葉劍英、江青、
(その後)張春橋、李先念 (UPIサン)

い不可能だろ
う。そうはいっ
ても、余震は
あるだろう。
特に文革派の
拠点であった
上海や、ある
いは天津など
が平穏なまま
で収まるもの
だろうか。
現に、華国
鋒主席昇格直
前の段階で、
どのような背
景を持つもの

かほ明らかではないが、四川
省や福建省でのかかり大規模
な混乱が伝えられている(ニ
ューズウィーク誌一〇月一八
日号)。
しかもその前から、毛主席
という「重し」が政治舞台の
前面から退く過程で、中国内
に規律や士気の弛緩がかなり
広範にみられた。急進派勢力
以外のものによる混乱もあり
えよう。
華主席は、「毛沢東思想」
の旗の下に、「党の団結と統
一を守り、組織性と規律性を
強め、党内の「右と左」の
日和見主義路線と闘う」(一
〇月一〇日の「人民日報」・
「紅旗」・「解放軍報」共同
社説)ことよってこの事態
を切り抜けようとしている。
これは容易な仕事ではない
だろう。しかし、「バランス
・オブ・パワー」の上に立つて
天安門事件や河北地震の難局
を無難にこなし、今日に至っ
た手腕」(中央大宮山榮吉講
師)などからも判断して、軍
の支持のもとになんとか指導
体制を強めることに成功する
のではないだろうか。
ただそのためには、「党運

営の正常化と、経済ビジョン
を打ち出すことがぜひ必要」
(富山氏)だろう。その経済
路線は、つまるところ周恩来
路線であり、また賃金問題な
どでは鄧小平前副首相が考え
ていた手直しが必要になると
思われる。
一方、対外関係では、やは
り新体制下で「一年ぐらいの
タイム・スパンで考えれば中
ソ関係はかなり改善に向か
う」(中嶋氏)とみる向きが
多い。もちろん、かつての中
ソ同盟に帰るとは考えられ
ず、「ソ連主敵」を改めて、対
ソ・対米等距離に近い形にな
るといふことだろう。逆にア
メリカとしては、次期大統領
がだれに決まろうと対中正常
化の動きが強まりそうだ。
日中の政治関係については
当面大きな変化はないとみて
よいだろう。また、実務派的
な現実路線ののっとなって経済
建設が促進されれば、日中貿
易にはプラスである。
ただ、首脳部の異動に伴っ
て、実務担当者の交替も考え
られるので、実際には今年い
っぱいぐらゐ事務処理面で混
乱が続くだろう。

SPOT

費用の内訳をみると、披露
宴、生活必需品のほかに、新
婚旅行の占めるウェイトも大
きくなっている。しかも時勢
を反映して四組のうち一組は
海外旅行という豪華さで不況
知らずだ。また婚約記念品、
新婚旅行は夫側、家具など生
活必需品は妻側と、費用が一
応分担されているものの、最
終的には半々の負担となっ
てる。

当世結婚総費用

しめて二八六万円也

満も非常に高まっていた。
こうした大衆の欲求や不満
が、昨年の杭州のいくつかの
工場ストや今年四月の天安門
事件となって突出したわけ
で、このような動きが、最近
の中国社会の重要な潮流とな
っていた。

この潮流をあくまでも押し
とどめようとした急進派が逆
にはじき出されてしまった、
ということだろう。

ありえない「第二文革」

アメリカのニューヨーク・

タイムズ紙は、「第二文革」
の可能性ありと報じている。
しかし、そもそも文革は、
毛主席健全にしてはじめてな
しえたものであり、しかも彼
自身時にはまさに薄氷を踏ん
でこれを行なった。さらに収
拾に際しては、軍の手をかり
なければならなかったのであ
る。

いまや毛主席は亡く、おも
だった文革派メンバーは一網
打尽にされ、民衆や軍にも文
革時の大混乱回避の気持ち
強い。「第二文革」はとうて

い不可能だろ
う。そうはいっ
ても、余震は
あるだろう。
特に文革派の
拠点であった
上海や、ある
いは天津など
が平穏なまま
で収まるもの
だろうか。
現に、華国
鋒主席昇格直
前の段階で、
どのような背
景を持つもの

かほ明らかではないが、四川
省や福建省でのかかり大規模
な混乱が伝えられている(ニ
ューズウィーク誌一〇月一八
日号)。
しかもその前から、毛主席
という「重し」が政治舞台の
前面から退く過程で、中国内
に規律や士気の弛緩がかなり
広範にみられた。急進派勢力
以外のものによる混乱もあり
えよう。
華主席は、「毛沢東思想」
の旗の下に、「党の団結と統
一を守り、組織性と規律性を
強め、党内の「右と左」の
日和見主義路線と闘う」(一
〇月一〇日の「人民日報」・
「紅旗」・「解放軍報」共同
社説)ことよってこの事態
を切り抜けようとしている。
これは容易な仕事ではない
だろう。しかし、「バランス
・オブ・パワー」の上に立つて
天安門事件や河北地震の難局
を無難にこなし、今日に至っ
た手腕」(中央大宮山榮吉講
師)などからも判断して、軍
の支持のもとになんとか指導
体制を強めることに成功する
のではないだろうか。
ただそのためには、「党運

秋の結婚シーズン前に、

三和銀行が「挙式前後の出納
簿」と題する調査結果を発表
した。これはアンケートによ
る調査で、回答のあった五二
三組(回答率三九・四%)に
ついてまとめたもの。

これによると、中堅企業の
サラリーマンの平均的な結婚
費用総額は約二八六万円とな
る。この直接の結婚費用以外
に、住宅などの経費も加わ
る。結局、当人同士ですべて
まかないきれず双方の両親か
ら計二一四万円出してもらっ
ているのが現状だ。